



備前市【岡山県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成26年3月 ■ 人口：34,979人 ■ 面積：258km²
■ 担当課：備前市教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



備前市は「旧閑谷学校」や「備前焼」など豊かな地域文化資源を持つ地域です。歴史文化基本構想では、このような資源を、長期的、計画的に活用するため、これらを取りまく周辺の環境や自然を含めた地域文化資源を組み合わせ、当市の歴史文化の特徴を示す7つのまとまりを設定しました。

5 歴史文化を表す つのキーワード

備前焼、閑谷学校、耐火煉瓦 近代漁業、ふるさと

課題

- ・豊富な地域文化資源に対して次世代へ引き継ぐための指針の欠如
- ・市町村合併による地域どうしの文化財や歴史に対する認識の差異

保存活用方針

- ・地域文化資源の総合目録づくり
- ・市指定文化財の精査
- ・文化施設の現状分析と将来的展望
- ・地域学習の推進

保存活用のための取り組み

旧閑谷学校観光ボランティア養成講座の開催

日本遺産の構成文化財にもなった、旧閑谷学校の観光ボランティアを養成する連続講座を開催しました。これまでも観光ボランティアの活動はありましたが、新規のボランティア獲得にもつながりました。

備前歴史フォーラムの実施

備前焼を中心として、研究者と市民で歴史を考えるフォーラムを継続して開催しています。年ごとにテーマを変え、行政発掘や様々な調査、研究機関と共同で行った科学分析の成果等を市民へ公開する場にもなっています。



備前焼や文学、近代漁業に関する文化施設での情報発信

歴史文化基本構想で提示した軸となる地域文化資源やストーリーを意識し、文化施設での企画展を開催しています。備前焼、備前市出身の作家・柴田錬三郎、牡蠣養殖など、様々な分野の展示を行いました。



備前焼の製作道具調査事業

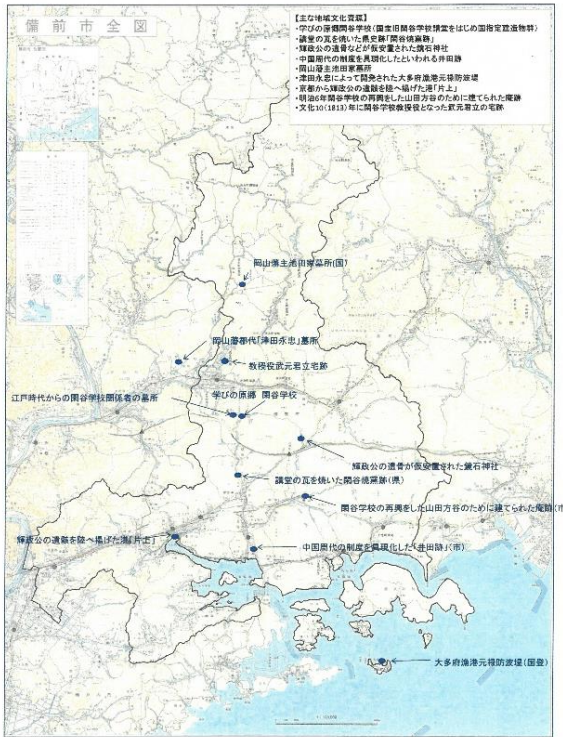
有形民俗の観点から、備前焼の製作道具を収集し、近世・近代における製作工程の復元や、現在の様子について聞き取り調査を行いました。収集した資料群は文化施設で公開していきます。





関連文化財群

1 学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産



地域文化資源を「備前市の歴史・文化を特徴づける文化財の関連性によって生み出される一定のまとまり」として再構成したものが、「関連文化財群」です。これは従来の指定文化財等のフレームを活用しつつも、これだけにとらわれることなく「現在、過去、未来」など時間軸の視点、「娯楽文化」の視点など多方向から考え、設定しています。

ストーリー

- 1 学びの原郷閑谷学校と岡山藩主池田家の遺産
- 2 備前焼を生み、栄えるまち
- 3 近代漁業発祥のまちと食文化
- 4 中世山岳仏教の栄華とふるさと村の景観
- 5 耐火煉瓦産業で日本の近代化を支えたまち
- 6 映画と文学、「心象風景」の残るふるさと
- 7 交通と交流の要となった地



策定後の成果（見込まれる効果）

① 地域学習の素材として活用

策定後、ボランティアガイドなどを対象に、構想の説明や活用するためのマップ案などを配布し、様々な意見をいただいた。各地域の方々に構想の内容を直に伝えることは難しいが、地域ごとのマップ作製などをおして徐々に浸透をはかり、地域のなりたちに関心をよせてもらう効果が期待できる。



② 市の様々な施策に反映

市の総合計画や、教育委員会の施策評価制度など、様々な場面で「歴史文化基本構想に基づき・・・」と記載されるようになった。特に複数年度にまたがって事業計画を挙げる場合、予算ヒアリングなどで説明ツールとして効果的な場合がある。



③ 日本遺産申請時に有効に活用

「閑谷学校」や「備前焼」などの日本遺産申請時に、その基礎資料として有効に活用することができた。構想の中で、関連文化財群として地域のなりたちや構成する資産を把握していたので、申請作業がスムーズであった。

